



中央聖書神学校 Central Bible College

CBC後援会だより vol.25

教会の親方は牧師 —教会—パパを!

横須賀 直人 (CBC後援会書記
中央聖書教会)



コロナ禍の頃より、チケットが取りやすくなり大相撲を熱心に観戦している。でも最近は大相撲ブーム再来でチケットがなかなか取れずまことに遺憾である。実は私の親戚筋でかなり面白い大相撲ネタがあるが、ここでは割愛する。

さて、かねてより相撲部屋と教会は似ていると思っている。相撲部屋を率いる親方の個性により、バラエティーに富んだ45の部屋がある。親方と弟子、牧師と信徒、その関係はいずれも家族のようである。弟子は親方を父と思ひ、弟子同士は兄弟のように育つ。一方教会では、イエス様をお父さんと呼び、信徒は牧師を「霊の親」と慕う。カトリック信者はローマ教皇を「パパ」と呼ぶ、あの感覚である。

教会の親方は牧師、つまり「パパ」である。中央聖書教会では最近「パパ」の交代があった。ちなみに高木謙次牧師は私よりかなり若いのだが、神様に召された器「パパ」と思ひ、教会を建て上げるために従っていく所存である。

ところで、「パパ」不在、つまり無牧の教会が増えていると聴く。これはアッセンブリー教団に限らず、国内キリスト教界全体の傾向であるらしい。このままだとキリスト教会は廃れていくだろうと言われている。しかしこれは、キリスト教の大テーマであるイエス様の宣教命令からするとあつてはならない由々しい事態である。

理想は「一教会に一パパ」であるが、現実は無牧教会がある。このギャップを埋めるために取り組む課題が牧師の兼任だという説がある。でもこれは、誤解を恐れずに言うとうと、「私のパパは他所のパパ」とも言えるのではないか。私は今、改めて原点に戻り、各教会に専任の「パパ」がいる

状態を目指して、祈り、献げて、知恵を出し合い、神学校を後援する活動をしていこうと決めている。



横網の等身大パネル

新メンバーの紹介

安田 麻理姉
(武蔵野基督教会)

教会では、日曜派遣の神学生の個性を生かした



ご奉仕に、毎週沢山の恵みをいただいています。今回後援会役員に加わらせていただき、かつてCAキャンプで一緒に過ごした懐かしい面々と、元気に再会できたことも感謝です(笑)。

栗原 純二兄
(神召キリスト教会)

CBC後援会の働きを主にあって与えられた



ことに心から感謝します。後援会役員としては若手の部類。只、主に導かれつつ、この働きの前進に微力ながら喜んで仕えていきたいと思ひます。

CBC後援会の働きに協力する

シヤロンキリスト教会 牧師 上田 努
川尻キリスト教会



主の御名を賛美します。

私が中央聖書神学校に入学したのは、2006年、今から20年前のことです。私は関西にあった、中央聖書神学校関西分校に入学しました。関西分校は夜間神学校で、通いながら勉強するため、どちらかというと誰かに助けてもらっている感覚はありませんでした。

でも、卒業式は本校と合同で行い、本科生4名と関東分校生1名、そして私の6名が共に卒業するとき、後援会から私にもプレゼントをいただきました。それぞれの名前のハンコ付ボールペンでした。それをいただいたとき、上田の名前のハンコを見て、「あ、私も神学生として認めてもらえているのだ」と嬉しかったことを覚えています。以前のCBC後援会だよりで、酒井前後援会長の文章の中に、「後援会は会費を取りまとめ、神学校に献金します。神学校はこれを奨学金として神学生を支援します」と書かれていました。私は分校生

で正社員として働いていましたので奨学金を必要とせず、いただいていなかったため知らなかったのですが、後援会が収入の方策を断って学び訓練を受ける神学生を支え続けてこられたことを初めて知りました。

先日、私が牧会している教会にCBCの本科生を長期派遣としてお招きしました。素晴らしい働きをしてくださいましたが、様々な場面で神学生がお金をやりくりしながら生活している姿を目の当たりにして、彼らがそのような心配をすることが出来ればよいのと思いました。

後援会がそのようにかつての神学生も、今の神学生も祈りと献金をもって支えてくださっていることに、神学生の先輩として本当に感謝しています。

私が2025年4月より兼牧している川尻キリスト教会は、以前より後援会へ協力しています。こ

れは、前任者である高口喜美男先生が、ご自身もかつて神学生であられたときの経験から後輩たちを助けたという思いで、教会の皆さんの賛同をいただいで教会として支援してきているのだと思います。このような嬉しい支援はぜひ続けていきたく願ひ、私が牧師になつてからも継続しています。

マタイ25:40

「あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」

主のために働こうと訓練に励む献身者を祈り支える後援会の働きのために、

今後、祈り捧げ、協力しましょう。



川尻キリスト教会

通常総会、茶話会報告

2026年2月28日(土)、通常総会が工事完成した神学校チャペルで行われました。会場出席者29名を得て、第一号議案から七号議案までが誠実に審議され、全件満場一致で可決されました。そして、全国各地から



から議決権行使葉書が131枚届き、会員皆さんの意識の高さを感じました。

今年度は会長、副会長の改選があり、会長には

酒井勝兄が再任され、副会長には柏勝兄が新任されました。ここに「勝勝コンビ」が誕生しました。

総会後は、恒例の茶話会が開催されました(35名出席)。三宅校長、卒業を控えた古澤神学生と江里口神学生、また大屋神学生、永福神学生よりご挨拶をいただき、福田姉手づくりのデザートを楽しみつつ、懇親を深めました。

尚、総会と茶話会の合間を縫って、今回新たに作られた「後援会入会案内動画」の撮影、インタビュ어가作成スタッフの上坂さんご夫妻により行われました。書記 横須賀直人



通信科 専門課程
豊田カレブ

ハレルヤー！ 主の御名を賛美いたします。私はアッセンブリー大津キリスト教会出身で、通信科専門課程二年目の豊田カレブと申します。

私は、大学四年生で参加した全国ユースキャンプで、イエス様から「私のために働きなさい」と召しを受け、献身を決意しました。その後、不動産業界に就職し、三年間勤めました。しかし、その三年で主から離れ、献身の道を諦めようともしました。しかし、主の恵みにより、主が献身の道を再び開いてくださり、ヨハネ21章17節の御言葉を受け取って、今も中央聖書神学校で献身の道を歩めていることを主に感謝いたします。

私が奨学金を受けたのは、大きく二つの理由があります。一つ目は、経済的な理由です。現在、私は学びに出来る限り専念するため、正社員を辞めて、アルバイトをしながら学んでいます。そのため、生活をしながら学費を支払う事が非常に困難です。しかし、奨学金によって、その問題が解決されて、学びに専念することが出来ています。二つ目は、学びのためです。私は、今後の牧師としての糧として、神

学校の学びで必要な書籍等は、可能な限り購入することにしています。しかし、その書籍は、中古であっても非常に高価であることが多くあります。その際に、奨学金を受けていることで、書籍を購入することが可能となり、神学校での学びと今後の働きに大いに活かされると思います。

神学校を卒業後は、牧師として神と人々に仕え、この日本の魂の救いのために献身の道を歩んでいきたいと願っています。特に、子どもたちやユース・大学生など、若い世代に福音を述べ伝え、彼らがキリストの弟子となれるように、少しでも主の働きのために仕えていきたいと願っています。

改めて、いつも私たちのために祈り、捧げてくださっている後援会員の皆様にご心より感謝申し上げます。そして、私たちをいつも助け、導いてくださる主に心から感謝します。

主にありて。

お祈りとご支援を感謝します

神学生のあかし



通信科 専門課程
三箇頭人

私は牧師家庭に生まれ、物心ついた頃から教会で育ちました。幼い頃から福音のメッセージを聞き、イエス・キリストの存在を当たり前のように入れていました。しかし、本当の意味で救いを実感したのは高校生の頃でした。

クリスチャンとして歩みながらも、思春期の中で自分の内側にある妬みや裁く心、汚れや弱さに苦しみました。理想と現実の乖離に自己嫌悪を深め、「自分は本当に救われているのだろうか」と確信が揺らぐ時期がありました。そのようなか中で、「その罪や弱さのためにこそ、イエス様は十字架にかかってくださった」という十字架の愛が深く迫り、救いの確信へと導かれました。

現在は母教会に仕えながら、ワシントン州の奉仕や子ども・ユースミニストリーに携わらせていただいています。その中で、もっと深く主と教会に仕えたいという思いが与えられ、CBCで学ばせていただいています。最近ではシニア伝道への思いが与えられており、教会が地域に住むすべての世代の人々に祝福をもたらす、人々の心の居場所となり、地域社会の中で大切

な役割を果たす存在となると、教会に対するビジョンが与えられています。

また私は、日本宣教におけるサブカルチャーの可能性に強い関心を持っていきます。アニメや漫画などは、多くの日本人の価値観や人生観に大きな影響を与えています。私自身もその文化に親しんできたからこそ、この領域を通して福音を届けたいという思いがあります。聖書の世界観や父なる神の愛、十字架のメッセージを、現代の日本人に届く形へ「翻訳」するような働きをしていきたいというビジョンが与えられています。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」(ルカ5:4) この日本の深みに大きな福音の網を下ろす働きに用いられたいと願っています。

仕事と教会奉仕を続けながら学びを続けることができているのは、後援会の皆様の祈りと奨学金の支援があるからです。専門課程への進級にあたり、経済的には決して余裕がありませんでしたが、この支援によって今の学びと生活が守られていきます。多くの方々の犠牲と献げものによって支えられていることを深く感謝しています。

主の御言葉に従い、日本宣教の深みへと漕ぎ出していきたくと願っています。



